

【水の里の旅コンテスト2018 応募企画】

【学生部門】

比治山大学 観光振興ゼミ 2年

『 扇ノ山を源とする殿ダムと浦富海岸、「旬」体感ツアー

～人と水とが創造する、遊・食・景その見聞はきっと永遠（とわ）になる！～ 』

（観光地域：鳥取県 鳥取市国府町、岩美町）

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	夏		
【催行人員】	15名（最少催行人員：10名）	【お勧めする旅行者層】	自然と触れ合いたい20代若者層
【旅行代金】	30,680～33,180円 (大人1名)	【内訳】	
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通費（小型マイクロバス借上げ） 15,000円 ・宿泊費 3,000円（かやぶき交流館） ・食費 4,680円（できたて豆腐膳1,380円、海鮮丼セット1,500円、スフレパンケーキ1,800円） ・体験費 サップ5,500円～クリアカヤック8,000円 ・その他 バーベキュー代・カレー材料代・朝食パン代など計2,500円程度 	

【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】

標高1309.9mの扇ノ山、大山と並んで鳥取県を代表する火山である。険しい断崖や峡谷・滝・高原など多様な自然環境に囲まれた、この扇ノ山（扇ノ山の溶岩流によって形成された河合谷高原）を水源とする2本の川が、千代川支流である国府町（鳥取市）の袋川と、岩美郡岩美町を流れる蒲生川であり、その川の水はやがてそれぞれに日本海へと流れ込む。「水」はその循環の過程で、あらゆるものにとって、時には洪水や濁水などの脅威となり、一方では「命の源」となり多くの恵みを与えている。流域では人々はその豊かで多様な水資源を活用して、創意工夫しながら地域の資源を創り上げている。当企画は、そうした水源を同一にする2つの川の国府町エリア（上流域）と岩美町エリア（下流域）を巡りながら、「水」の脅威と恵みを体感し、「人」が「水」とどのように共生しているか、改めて考える機会を提供できるツアーである。メインスポットは殿ダム（国府町）と浦富海岸周辺（岩美町）。企画立案のポイントは以下3点である。

1) 1点目は、「殿ダム」そのものを観光資源とした点である。殿ダムは「環境への配慮と機能性を兼ね備えた多目的ロックフィルダム」として、平成24年袋川上流域の国府町に完成した。国内初とも言われる高度な技術を取り入れ、長年人々を悩ませ続けた「水」の脅威を克服し、地域の営みを安全・安心へと導いた。今日の流域ののどかな生活の背景には、こうした「人」の知識と技術が「水」に立向かった経緯があることを私達は忘れてはいけないだろう。ダムに訪れる意味はそこにある。殿ダム建設の経緯やその果たす役割・高度なしくみを学びながら、またエキサイティングなダム内部探検、発電所の内部探検などを体験することは、20代の若者層にとっても新鮮で探究心を刺激するはずである。また「平成のピラミッド」と称される、県下一の高さを誇る中国地方唯一のロックフィル型の岩石を積み上げた美しい姿は、これまでのダムの印象とはまた違い、このツアーの目玉となること間違いない。

2) 2点目は、当企画はまさに「水をテーマとしたインフラ・ジオツーリズム」の典型として提案するものであるが、単に観光スポットを点として繋ぐものではなく、「水」がもたらす脅威と恵みが目に見えるかたちで、旅行者である若者層に意識付けられるよう、その関係性を重視した点である。殿ダムが位置する国府町エリアと浦富海岸の岩美町エリアは、水源が同じであるばかりでなく、山陰海岸ジオパークの山エリア・海エリアとして認定されているという共通点がある。山エリアでは、ダム建設がもたらしたかやぶき交流館や里のホタル、おいしい水から作られる豆腐料理や雨滝などを繋ぎ、「景」や「食」等の水の恵みを提供できる。かやぶき交流館はダム建設によって水没地となった家屋の材料を使用して再生された、流域の人々の想いの詰まった宿泊所である。また海エリアでは、複雑な海岸地形と地質遺産から、水の脅威を感じながらも、素晴らしい「景観」やマリナクティビティなど水に触れることの「楽しみや遊び」、豊かな海の幸を提供できる。2つのエリアでの全行程を通して、「水」と「人」との共生がもたらした水資源の豊かさと重要性を感じてもらいたい。

3) 3点目は、「水」と共生する地域の「人」を観光資源とした点である。旅の楽しさや満足度はそこで出会う人々との触れ合いに大きく左右される。熱心に地元を語り地域を支える人々の「熱さ」や、オープンに迎え入れてくれるおもてなしの心に触れることができる旅は、印象強く心に残る。私達は現地調査で多くの関係者団体・料理店などから多くの暖かい配慮を頂いた。当企画は関係者団体と食を通じた交流や地域の祭りに合流するなど、また随所に現地関係者による解説・ガイドを取り入れた。そうした旅の楽しさが感じられる機会を多く設けている。

旅の付加価値は、娯楽体験（楽しい・面白い）、教育体験（もっと知りたい・学びたい）、審美体験（美しい・いつまでもここにいたい）、非日常体験（いつもと違う）の4体験（『経験経済』B.J. パインⅡ、J.H. ギルモア著）の有無にあるという。観光振興による地域活性化策を学んでいる私達は、今回この4つが揃うように企画立案した。旅行者である20代若者層にとって、当企画で見たり聞いたりしたものは、私達も感じたように、これからの生活に何か大きなヒントを与えてくれるものになるだろう。そんな願いと期待を込めて、サブタイトルを「その見聞はきっと永遠（とわ）になる！」とした。これは岩美町が舞台になったアニメ「Free!」のキャッチコピー「その夏はきっと永遠になる」をアレンジしたものである。

【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足度を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
<p>①催行に際し、国内旅行傷害保険（任意）の加入を勧める</p> <p>②1日目の行程の見学は、現場・地元の関係者によるガイド付きである。</p> <p>③2日目のマリンアクティビティは現地での事前講習（飲酒・重大な傷病の有無、携帯物・天候対応等）を含む他、料金には保険料・用具一式料が含まれている。</p>		<p>①自然の脅威と恵みの2面をしっかりと見聞きできるよう、解説・ガイド・交流の時間を充分に取った。</p> <p>②「大茅ホタルの里まつり」という地域の祭りに合流することで、より地域の文化に触れることができる。</p> <p>③共同の自炊・宿泊所等、合宿の雰囲気を持たせることで、旅行者間や地域との間に、より親密感が生まれる。</p> <p>④この地域ではイベント時しか食せない「ダムカレー」を、地域団体と一緒に作って食べる機会を得られる。</p> <p>⑤ダム・発電所の内部体験やかやぶき交流館での交流など、個人旅行では体験できないプログラムが揃っている。</p> <p>⑥殿ダムでは、ダムマニアに人気の「ダムカード」がプレゼント。</p> <p>⑦マリンアクティビティでは、クリアカヤック・スタンドアップパドルのいずれかを選択することができる。</p> <p>⑧話題性のある「瑞風」関連のお洒落なレストランにも立寄る。</p> <p>⑨「今（季節）だけ・君（当企画の旅行者）だけ・ここ（地域）だけ」の遊・食・景を、実際に見て・触れて・聴いて・感じる事が出来るプログラムである。</p>	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
①殿ダム管理支所（国土交通省）	殿ダムの解説・ガイド	⑥鳥取県国府町総合支所地域おこし協力隊	情報提供・資料提供 アドバイス
②袋川発電管理所（鳥取県）	管理所内の解説・ガイド	⑦鳥取市都市整備部都市環境課	かやぶき交流館の解説・ガイド
③殿ダム交流館	情報提供・交流 殿ダム周辺団体の調整	⑧岩美町観光協会	情報提供・資料提供 岩美町観光のアドバイス
④殿ダム水源地域活性化推進連絡協議会	情報提供・交流	⑨つばめ交通（株）	情報提供・資料提供
⑤いなば国府ボランティアガイド	殿ダム周辺の解説・ガイド	⑩ひろでん中国新聞旅行（株）	今後の商品化検討
【特記事項】	<p>1) 数ある中国地方のダムの中で殿ダムを選択した理由は、その高い最新技術の他に、水源地域の活性化に向けた様々な取組が精力的に展開されている点にある。過疎化が進む中でも、愛着と誇りを持って地域活性化に奮闘されており、水源地域の自然・歴史・文化の保全活用等を目的に、官民一体となった「殿ダム水源地域活性化推進連絡会」が中心となってイベント・講習会・広場活用など年間を通し実施されている。現地ではさらに「若者に来てもらいたい」との声も挙がった。当企画により、こうした地域の関係団体の熱意と、「よそ者」「若者」独自の自然観・地域観とが合流できる場を設けることで、新たな刺激・発想・価値観が生まれる等の相乗効果を期待している。</p> <p>2) 浦富海岸周辺（下流域）でのアクティビティを選択した理由には、前述（企画趣旨）した他、以下2点も含まれる。 ①山陰海岸ジオパークエリアでも有数な体験エリアとして豊富な観光資源に恵まれながらも、観光客数が鳥取砂丘の1/10程度にとどまっている現状からである。観光シーズンが夏中心ということもあるが、それにしてもまだまだ低い認知度の解決に、20代若者層が持つ情報発信力（SNS等）の貢献を期待している。 ②山陰海岸ジオパークをテーマにした既存の地元観光企画（ツアー等）はいくつか確認できたが、岩美町内に限定されたものが多く、当企画のような山（上流域）・海（下流域）を繋いだものは今だ見られない。国府町（合併前は岩美郡）と岩美町にまたがる広域観光連携の可能性を念頭に置いた。</p> <p>3) 当企画は私達学生が、多くの関係団体からの情報・資料・アドバイス等頂いて実施した現地調査を踏まえて企画立案したものだが、今後は是非ひろでん中国新聞旅行（株）との連携で商品化を目指したい。</p>		
【催行実績】	無		

【 行 程 表 】	
1日目	<p>【8:00】 広島駅新幹線口 → 鳥取県国府町雨滝散策 → とうふ工房雨滝（昼食：できたて豆腐膳） → 殿ダム管理支所（解説等） → 殿ダム内部探検（ガイド付き） → 袋川発電所内部探検（ガイド付き） → 神護ふるさと村（かやぶき交流館でのバーベキュー・ダムカレーづくり・地域団体との交流） → 大茅ホテルの里まつりに合流・星空観察 → かやぶき交流館（泊）</p>
2日目	<p>【7:00】 かやぶき交流館（朝食：パン工房大地の恵み配達のパン類） → かやぶき交流館 → 岩美町渚交流館（マリンアクティビティ体験：クリアカヤックまたはスタンドアップパドル等） → 「海と大地の自然館」見学（ガイド付き） → くいもんや海慶さざなみ（昼食：海鮮丼セット） → 浦富海岸遊歩道巡り → 浦富海岸島めぐり遊覧船（ガイド付き） → アルマーレ（デザート：スフレパンケーキ） → 浦富海岸周辺発 → 広島駅新幹線口</p>

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】		
【 雨滝（日本滝 100 選） 】	【 とうふ工房雨滝（できたて豆腐膳） 】	【 殿ダムと因幡万葉湖 】
 <p>中国地方の代表的火山の1つ、標高1,309.9mの扇ノ山から注がれる水はやがて滝となる。その溶岩の流端部にできた、険しい断崖と特有の原生林に囲まれた滝。平成2年に「日本の滝百選」に選ばれた雨滝である。幅4m、高さ40mの鳥取県随一と言われる飛瀑光景が目の前に広がり水しぶきが降りかかる。その荘厳で神秘的な美しい佇まいの印象は、古来より有数の霊場として伝わってきた雰囲気によるものなのか。殿ダムが位置する袋川の源流でもあり、山陰海岸ジオパーク扇ノ山エリアの重要な観光資源の1つである。</p>	 <p>雨滝から約1.5km、徒歩で10分ほどの場所に、ログハウス風の「とうふ工房雨滝」がある。殿ダムからは車で10分程度。大豆は100%鳥取県産で、扇ノ山系のきれいで美味しい水のみを使用した豊富な豆腐メニューが、「この土地ならではの地元食材」を強調している。一番人気の「できたて豆腐膳」（1,380円）には、水にさらしていない温かな豆腐をメインに、豆乳茶碗蒸しや湯葉の小鉢がついている。子供にも配慮した「お子さま豆腐丼」（380円）や、豆腐ドーナツ（5個450円）、豆乳デザート等もお勧め。</p>	 <p>出典) 殿ダムパンフレット表紙</p> <p>殿ダムは、平成24年に一級河川千代川水系袋川が流れる鳥取市国府町に完成した。鳥取県による調査開始（昭和37年）から半世紀にわたる建設事業の経緯は、千代川の度重なる氾濫による甚大な洪水被害や渇水から暮らしを守るため、地元との葛藤から理解・協力へ変化していった、まさに流域関係者の願いと努力の歩みでもある。ダム湖名は公募により、因幡の国の中心として栄えた国府町らしい「因幡万葉湖」と決定。中国地方で唯一の「ロックフィルダム」型式で、高さ75m（県下一）、長さ294mの美しさから「平成のピラミッド」と呼ばれている。</p>

【 殿ダムの仕組みと周辺探索 】



殿ダムには他のダムには見られない最新技術を取り入れた工法的特徴があり、見学者も解説を受けながら、実際に見て学習することができる。その1つが国内初の採用となった「カスケード型減勢方式」と呼ばれる階段状の洪水吐である。この方式によって水の勢いを弱め、洪水時でも安定した放流を行うことが可能となった。また周辺には4つの広場が整備され、例えばダム堤体を眺望できるシンボリック空間である記念広場には殿ダム交流館もあり、毎週少年サッカー試合が行われるなど地域住民に活用されている。

【 殿ダム内部探検 】



殿ダム見学で最もエキサイティングな体験ができる場所。管内に入り重厚な扉を開けるとそこに待っていたのは1年中変わらないヒンヤリ感と、平衡感覚が狂いそうになる角度45度の階段が続く。転落防止ガードがところどころあるものの、底に向かって369段を75m降りていくと、次第にダム水が染み出している地下通路に達する。殿ダム定礎石で一休みし、今度は高さ14mの60段の螺旋階段を含めて、底から125段を上がりようやく地上へ。外へ出ると、そこはダム下流面で、実際に積み上げられたロックフィルの岩石に触れることができる。

【 袋川発電所内部探検 】



平成23年から発電をスタート。殿ダムの貯水放流時の勢いを利用して水力発電を行う。発電能力は最大1,100キロワットで、約1,400戸の一般家庭に電気を供給している。殿ダムが流域住民に安全安心な暮らしをもたらすための重要な役割の1つである。施設内ではダム建設に合わせての工事の過程や、発電機・水車などの発電工程設備（写真の緑色の機械の中にある直径80cm程の水車を回すことで電気が生まれる）など、ダムによる水力発電のしくみと水資源の活用による再生エネルギーの重要性を学ぶことができる。

【 神護ふるさと村（かやぶき交流館） 】



神護ふるさと村は殿ダム水源地域ふるさとづくり事業として整備された体験施設。ダム建設によって水没地となった2戸の家屋材料を使用して移築された施設と伺った。地域住民を含め多くの関係者によって平成23年に策定された「殿ダム水源地域ビジョン」には、「都市住民の山村暮らし体験などが可能となり、交流による地域活性化が図れる」と記載されている。かやぶき交流館には囲炉裏もあり、昔にタイムスリップしたかのような古民家ならではの雰囲気味わえる。自炊可能で料金は中学生以上で3,000円/一泊。

【 殿ダム水源地地域活性化推進連絡協議会 】



殿ダム水源地地域ビジョンの円滑かつ効果的な事業推進を目的に、平成26年に設立された組織団体であり、地域の振興協議会や自治会・ガイド団体・殿ダム周辺広場指定管理者など6団体で構成されている。殿ダムを地域資源として地域活性化を図るべく、殿ダム内部体験・ダムマイスター講話によるダムの魅力発信・中国地区ダム写真展・殿ダム環境学習会・水源地域の食を通じたPRなど、水源地域活性化の大きな力となっている。私達の現地調査でも詳細な現地プログラムの作成や意見交換会を準備して下さり、笑顔で迎えて下さった。

【 ダムカレー 】



提供) 殿ダム交流館

ライスを「堤体」、ルウを「貯水池」に見立て、ライスの横の「下流」部分には各種副材を盛り付けたご当地カレー。各地のダムの形状や周辺の地域特性・地域特産に応じてバリエーションがあり、2018年現在150種類以上とのこと。殿ダムはロックフィルダムのため、ライスは直線的に盛られ、カスケード（洪水吐）をイメージした部分の具材には豆腐ちくわが使用され、キャベツは広場の芝生を表している。5月の殿ダムフェスティバル等で限定商品として提供されるのみのため、当ツアーで地元関係者と作れるのは嬉しい体験である。

【大茅ホタルの里まつり】



右上、下提供) 大茅地区振興協議会

殿ダムから車で10分足らずの大茅地区栃本廃寺跡周辺。この付近を流れる大石川(袋川支流)では6月中旬頃から多くのホタルが現れる。ホタルはきれいな水に多いと思われがちだが、実はホタルはニナをよく好んで食べるために、居住地近くに多く生息する。殿ダムのおかげで下流域を中心にホタルが増加した。現在では地域住民等によるホタルの保全活動や、毎年大茅ホタルの里まつり(大茅地区振興協議会主催)が実施され賑わいを創出している。まさに大茅地区のホタルは地域振興の宣伝役である。

【星取県の星空観賞】



提供) 殿ダム管理支所



出典) 鳥取県パンフレット

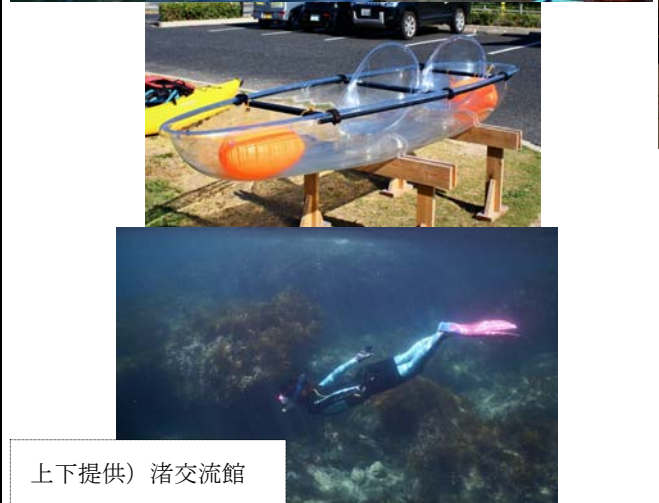
鳥取県は全国星空継続観察(環境省)によると「星の見えやすさ」全国1位。鳥取県は現在「鳥取県は星取県になりました」とその魅力を発信している。まさにポスターのタイトル「CATCH The STAR」である。「鳥取県民・星空愛好者が勧める星空MAP」(鳥取県観光交流局)には、殿ダム付近の駐車場もお勧めスポットとして挙げられている。星空を楽しむアクティビティも数多く、殿ダム管理支所では毎年、夏季月上旬頃に殿ダム交流館イベントに合わせて星空観察会を開催。

【パン工房大地の恵み】



平成14年から創業した美味しいと評判の、国府町唯一のこだわりパン屋「パン工房大地の恵み」。雨滝のきれいな水や、「自分が育てた、自分が育った場所や知っている人々が作っている」材料・食物のみを使用するという信念で、地産地消をコンセプトにする。雨滝豆腐を使用したこだわりのパン(各110円)や、人気ランキング1位の大山みどりスコーン(各150円)などの様々なパンが並ぶ。ホットコーヒーなどのカフェメニュー(各250円)も充実していて店内での食事も可能。

【渚交流館でのマリンアクティビティ】



上下提供) 渚交流館

渚交流館は山陰海岸ジオパーク浦富海岸エリアにある自然・文化体験の拠点。シーカヤックやクリアカヤック、サーフィン、スタンドアップパドル等の様々な体験ができ、ジオパークのマリンアクティビティを思いっきり楽しめる他、魚の干物づくり、地引網、真名焼陶芸等の体験もある。クリアカヤックは透明なカヌーで、最高透明度約25mを誇る浦富海岸の海中を船底から観察できる。海の上に浮かんでいるような感動が得られると人気である。スタンドアップパドルも最近人気急上昇。豊富な水資源がもたらす自然との共生関係を学ぶ場でもある。

【海と大地の自然館】



食・マリンアクティビティの感動を生み出す、貴重で壮大な山陰海岸の自然環境を学べる資料館。遡ること約2500万年前の日本海形成から今日に至るまでの、海食・風食による地形・地質のドラマを判りやすくガイドが無料で説明してくれる。充実した展示コーナーのほかに、3Dシアター等の映像紹介、砂丘の砂や溶岩に実際に触れることができる体験コーナー、豊かな海に生息する生物観察まで可能である。渚交流館と隣接していて利便性も高く、マリンアクティビティとのセットでさらに満足度が高まる。

【くいもんや海慶さざなみ(海鮮丼)】



JR岩美駅から車で10分足らずに位置する「くいもんや海慶さざなみ」。地元漁師が経営する人気の海鮮料理店である。お勧めは鳥取県産の山芋入りの、日本海の旬な幸が盛り込まれた「海鮮丼セット」(1,500円)。豊富な山海の幸に恵まれた岩美町では、選び抜かれた8食材を「いわみ八宝」と称して、山陰海岸ジオパークの名物料理「ジオグルメ」として提供している。八宝の中で夏季は「岩ガキ」と「白イカ」。天然岩ガキ(夏輝)は日本海の数か所でしか獲れない貴重なカキ。イカ漁の漁火は山陰の夏の風物詩でもあり、白イカは中でも最高級とのこと。

【地元の心意気】



旅先で出会う地元の方との出会いは感動を生み、忘れられない思い出となる。くいんもや海慶さざなみの経営者に、来店した経緯をお話すると、特別に桶に岩がき・白イカ、アジ（頭付）の刺身を格好よく盛り合わせてくださった。また浦富海岸島めぐり遊覧船の船のりばでは、写真撮影をお願いすると大漁旗を持ってきてくださり揃って写って下さった。地元の観光資源に誇りと愛情を持って旅人を迎え入れる心意気を感じた。

【浦富海岸遊歩道巡り】



浦富海岸は岩美町の海岸線 15 km 全てを指した名称で、ユネスコ世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」の一部である。この辺りのリアス式海岸では、視る角度や時間帯によっても光景が異なり、海岸遊歩道からは多様な海岸地形の絶景を楽しむことができる。眺望スポットである城原海岸駐車場からは、もともとは一続きの岬が長い年月波浪による浸食で離れ岩となった菜種五島の姿が見える。点在する離れ岩に囲まれた美しい入江の鴨ヶ磯、鴨ヶ磯駐車場からは水尻洞門が見られる。

【浦富海岸島めぐり遊覧船】



海食・風食等、日本海の自然が造り出した断崖絶壁や洞門・奇岩が連続する浦富海岸の地質遺産を、島めぐり遊覧船で間近に視ることができる。遊覧船乗り場の網代港を出港して、最初に見えてくるのが浦富海岸を代表する島の1つ、千貫松島である。花崗岩の離れ岩でトンネルのように穴が貫通している地形を「海食洞門」と呼ぶそうだ。高さ10mほどの岩の頂上に生える見事な松がシンボリックである。40分間の就航時間（1,300円/大人）の中で、大小の島々が織りなす豪快な景観を楽しむことができる。船長自らのガイド付き。

【アルマーレ（スフレパンケーキ）】



提供) アルマーレ



浦富海岸沿い「東浜駅」が、平成29年に運行開始された豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」の立寄り観光地となったことに合わせてオープンした話題のイタリアンレストラン「AL MARE」。一般客も受け入れている。「AL MARE」はイタリア語で「海辺」という意味で、その名の通りオーシャンビューの素晴らしい景色に魅了される。地元岩美町の食材を使用するため、季節によって魚や野菜が異なり四季を楽しむことができる。カフェタイムには、こだわりの天然酵母を使用したスフレパンケーキセット（1,800円）が大人気。

【岩美町観光協会】



JR 岩美駅隣に位置する岩美町観光協会。岩美町観光の情報発信の拠点である。観光案内はもちろん、宿泊予約やガイド紹介、レンタサイクルの貸出等を行っている。私達が現地調査のために2か月以上前から行った情報収集作業に、とても丁寧に相談に乗ってくださった。岩美町の総観光客数は鳥取砂丘周辺、境港周辺、米子・皆生温泉周辺・大山周辺に比較してかなり低く、鳥取砂丘周辺の1/10程度と言われた。岩美町の魅力を伝えたいという気持ちが伝わってきた。訪れた時は既に初対面のような気がしなかった。